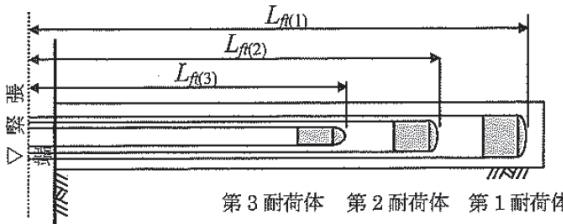
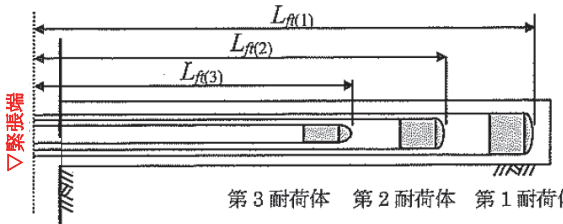


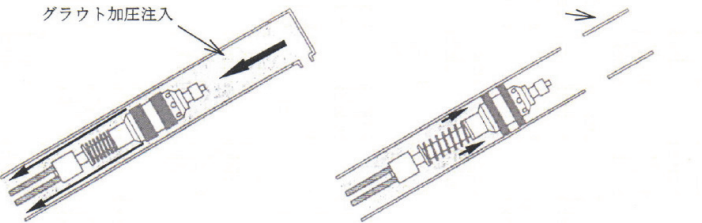
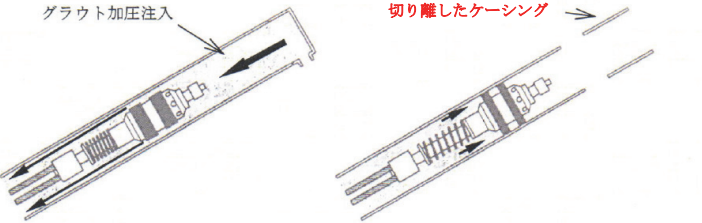
『建築地盤アンカー設計施工指針・同解説』[第3版] 正誤表

* 「修正刷」の欄は以下を表す。

1：第1刷での修正

修正刷	修正		誤	正
	ページ	箇所		
1	36	3行目	アース・アンカー工法 一付・土質工学会アース・アンカー・設計・施工基準 一 ，1976	アース・アンカー工法 一付・土質工学会アースアンカー設計・施工基準 一 ，1976
1	41	解説表2.2	孔内載荷試験	孔内水平載荷試験
1	48	11行目	引 技 抵抗力	引 技 抵抗力
1	60	14行目	Φ	φ
1	71	下から12行目	注入材への の 伝達するための	注入材へ伝達するための
1	72	解説図4.4(b)	 <p>(b) 分散耐荷体方式 (U字定着)</p>	 <p>(b) 分散耐荷体方式 (U字定着)</p>
1	76	解説表4.9 [見出しで全10カ所]	標準 型 ，遅延 型 ，促進 型	標準 形 ，遅延 形 ，促進 形
1	77	4行目	混和 材	混和 剤
1	79	解説図4.7	波 型 ステンレス製シース	波 形 ステンレス製シース
1	85	8行目	通常 6～8% あるが ，	通常 6～8% とされているが ，

1	104	(6.2.12)式	C_u	C_u
1	104	(6.2.11)式、 (6.2.12)式	Ψ	ϕ
1	105	解説図6.15(a)	$\Psi = 2(a+b)$	$\phi = 2(a+b)$
1	105	2～6行目	応力材が極端に短い場合やソイルセメントの強度が著しく低い場合は、応力材表面での付着破壊あるいはソイルセメントでのせん断破壊が生じる可能性がある ^{ので} 、付着抵抗+応力材先端の支圧抵抗、 ^{あるいは} 付着抵抗+せん断抵抗+応力材先端の支圧抵抗の ^{いずれか} が鉛直力を上回っていることを確認する必要がある。解説図6.16にソイルセメント壁で想定される破壊面の位置を示す。	応力材が極端に短い場合やソイルセメントの強度が著しく低い場合は、解説図6.16に示すように応力材表面での付着破壊あるいはソイルセメントでのせん断破壊が生じる可能性がある。その場合は、付着抵抗+応力材先端の支圧抵抗、 ^{および} 付着抵抗+せん断抵抗+応力材先端の支圧抵抗の ^{両方} が鉛直力を上回っていることを確認する必要がある。
1	157	解説表8.1 [機械の仕様の欄]	65～450 ℓ /min 級	65～450 ℓ /min 級
1	157	解説表8.1 [質量の欄]	2.1t～3.2t (乾燥重量)	2.1t～3.2t (乾燥状態)
1	157	解説表8.1 [質量の欄]	施工状況に合わせる	施工状況に合わせる
1	172	解説図8.14	 <p>第3耐荷体 第2耐荷体 第1耐荷体</p> <p>解説図 8.14 分散耐荷体方式の定着体を用いた地盤アンカー一例</p>	 <p>第3耐荷体 第2耐荷体 第1耐荷体</p> <p>解説図 8.14 分散耐荷体方式の定着体を用いた地盤アンカー一例</p>
1	175	解説表8.4	ミキサー等練混設備	ミキサー等混練設備
1	195	下から9行目	……有効率を考慮せずに設計アンカー力を有効緊張力と設定する場合が多いので、……	……定着後に増加する緊張力に対して設計アンカー力を設定する場合が多いので、……
1	197	解説図9.14(a)(b) [グラフの横軸の目盛り]	1, 2	1, 200

1	226	付録図6.3(b)	<p>グラウト加圧注入</p>  <p>① 加圧注入しながらケーシングを引抜くと、注入圧力によりケーシングパッカーは開放される。</p> <p>② 注入停止と同時にばねと水圧によりケーシングパッカーが作動しケーシング内を閉塞する</p> <p>付録図 6.3 方法-1 とその原理</p>	<p>グラウト加圧注入</p> <p>切り離れたケーシング</p>  <p>① 加圧注入しながらケーシングを引抜くと、注入圧力によりケーシングパッカーは開放される。</p> <p>② 注入停止と同時にばねと水圧によりケーシングパッカーが作動しケーシング内を閉塞する</p> <p>付録図 6.3 方法-1 とその原理</p>
---	-----	-----------	--	---